

# 平成25年度 期中モニタリング(事業評価)シート (別紙様式 2)

施設名: 市立石川保育園

評価区分 A: 目標や計画を上回る成果があったもの B: 目標や計画どおりの成果があったもの C: 目標や計画を下回っており、努力が必要なもの

9 月

NO.	期末モニタリング項目番号	評価月	評価項目	具体的な事業内容と成果目標・指標	確認資料等	9 月						備考		
						指定管理者の自己評価		所管課評価		改善プラン			所管課確認	
						評価区分	コメント	評価区分	コメント	改善・指摘事項の有無	時期		内容	対応状況
1	22	9月	基本的な保育内容	法人の方針である「和の保育方針」の下、各カテゴリーに当てはめた体験をすることで、心身ともに健全な子どもの育成に努めていく。  カテゴリー 『自然』『心』『礼節』『伝統』	事業計画 年間・月間保育計画 食育計画 実践記録	A	・指定管理3年目を迎え、「和の保育方針」も大分浸透して理解を得られて来ている中で、日本古来の遊びや伝統行事等を体験できる機会を多く持ちながら心身共に豊かに、遅く育つように意識して保育を実施した。 ・保護者の希望も受け止めながら取入れ、「静」と「動」のメリハリのある保育を展開している。 ・集中力と創造力を育むことを目的にボランティア講師による華道・陶芸等を取り入れた。 ・食育活動に重点を置き、栽培、調理、感謝の気持ちを持ちながら食べる等を関連付けて命の大切さを感じる保育をする。 ・坐禅体験、搾乳体験、流しそうめん等あらたな体験を導入。	A	「和の保育方針」に基づく保育内容が、保護者等の理解を得ながら、計画的に進められている。	無	後期	・「和の保育方針」を保護者の方により詳しく知って頂くために、実践報告やアピールをして理解を深めていただけるようにする。 ・ボランティア講師の取り組みや地域の方々との交流を保護者の方々の目に見えるように広げて行く。 ・普段、家庭では体験できないような体験を通して興味や関心を持って積極的にチャレンジする気持ちを持つような保育内容を展開していく。 ・クラス単位ではなく、園全体で異年齢児交流として取り組める機会を多く持つ。	済	
2	20	9月	保護者や地域との協働	・父母会役員会や保護者懇談会の内容充実を図りながら、保護者に園の方針をより理解していただき行事等を通して協働をすすめる。 ・地域の高齢者等の方々による保育ボランティアの数を増やし、日々の保育の中に入れてご意見等を頂く。 ・自治会との連携を図る。	保護者会・懇談会・面談記録 ボランティア活動集計表	B	・保護者(特に父母会役員)との連携を多く持ち、今期は父母会主催年長組でお泊り保育を実施した。 ・毎月定例で保育に入って下さる方と不定期ではあるがボランティア登録して下さる方が増えて来た。 ・地域の会議等で自治会会長とも親睦を深め、地域の方を行事等に招待する範囲を広げた。	B	父母会や近隣地域との相互協力関係を構築する活動が着実に進んでいる。	無	後期	・父母会役員および保護者と対話する時間を多く持ち、意向を調査しながら保育内容を見直していく。 ・保育ボランティア(高齢者、学生等)の人数を増やし、日々の保育の中に入れて頂きながら、礼節や思いやりの気持ちを育てて行く。 ・自治会との交流を積極的に持ち、次年度に向けて防災協定や合同行事等実施に繋がるように働きかけていく。	済	
3	20	9月	地域の子育て支援	・家庭福祉員2名との連携を始め、行事への招待や健診・身体測定・ミニ講座等々、遊びに来て頂けるようにする。 ・公立園と一緒に実施している「なかよしひろば」や出前保育を地域に知ってもらうよう、ポスターやチラシを作成し、近隣に掲示するなど工夫をしていく。 ・前年人気であった、支援センターでの講座の回数を増やす。	家庭福祉員との連携報告書 子育て支援計画表・報告書	B	・家庭福祉員2名(乳児6名)との交流が始まり、毎月のお便り等の情報提供および行事への招待等が始まった。 ・ひろば利用者は0・1・2歳児が殆どのため園内に支援担当を配置し出張する職員はしっかり対応が出来る者を派遣した。	B	家庭福祉員との連携を開始するなど、地域の子育て支援に向けた取り組みの拡充に努めている。	無	後期	・家庭福祉員との連携内容として行事への招待以外に何が出来るのか等を家庭福祉員やその利用者家族の要望を聞いて検討して行く。 ・地域の保育園、小学校、センター等との情報交換をしながら連携して子育て支援を展開して行く。	済	
4	5	9月	保育士の質の向上	・指定管理受託3年目として第三者評価を受審。事前に勉強会(内部研修)をする。 ・法人理念に添った目標を毎月掲げ、自己評価反省を行い、保育の質を高めていく。 ・職員各自が、目標を具体的にもち、研修に参加したり勉強を行って専門性を高めていく。 ・新保育制度の動向についても会議等で職員に伝え意識できるようにしていく。	研修計画・実施報告書、内部委員会綴り	B	・後期の第三者評価受審を視野に入れた内部研修やこども園等々の福祉情勢の内部研修を実施した。 ・法人主催の通年研修に出た職員が中心となり、フォトおよびビデオカンファレンスを実施し、職員間の情報・意識共有のための語り合いの時間を作った。	B	園内外における研修成果を園全体で共有し、人材育成につなげている。	無	後期	・ひとり一人に目を向け、その子の背景を含めた支援を職員の共通理解の中で出来るように情報共有のためのケース会議等を多く持つようにする。 ・エピソードカンファレンスを積極的に実施し、職員が互いの意見や思いを出し合える機会を持ち、保育に対する思いを共有していく。 ・内部研修については、同内容を有期雇用契約職員にも実施し、すべての職員が自己研鑽出来るように意識づけて行く。	済	
5	15 21	9月	環境整備・安全管理	・保育室の設備整備を中心とし、老朽化部分を修繕しながら保育環境を整え、安全性を高めていく。 ・日々の遊具および保育室内の安全点検を怠らず、老朽化部分は速やかに修繕するようにする。 ・床全面改修、エアコンの個別設置、ポイラー室・調理室改修等の大きな工事を実施する。	遊具等の安全点検表、修繕申請書・報告書、リスクマネジメントファイル、ヒヤリハット報告書	A	・日々の遊具および保育環境点検を踏まえ、支障のある箇所は速やかに修繕する。 ・リスクマネージャーを中心に委員会を設け、ヒヤリハットの集計・分析等を実施し事故を未然に防ぐようにしている。 ・遅番時の避難訓練を実施。	A	日常的な施設点検やヒヤリハット報告を踏まえ、保育環境の整備に努めている。	無	後期	・リスク委員会および防災委員会を中心に事故や災害を未然に防ぐことを全職員が意識出来るように進めて行く。 ・全職員が上級救命講習受講し、万が一に対応できるようにする。 ・災害時のBCP作成および地域との相互応援協定締結に向けて、準備を進めて行く。	済	

# 平成25年度 期中モニタリング(事業評価)シート (別紙様式 2)

施設名:市立石川保育園

評価区分 A:目標や計画を上回る成果があったもの B:目標や計画どおりの成果があったもの C:目標や計画を下回っており、努力が必要なもの

3月

NO.	期末モニタリング項目番号	評価月	評価項目	具体的な事業内容と成果目標・指標	確認資料等	3月							所管課年間評価	備考	
						指定管理者の自己評価		所管課評価		改善プラン		所管課確認			
						評価区分	コメント	評価区分	コメント	改善・指摘事項の有無	時期	内容			対応状況
1	22	3月	基本的な保育内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>「和の保育方針」を保護者の方により詳しく知って頂くために、実践報告やアピールをして理解を深めていただけるようにする。</li> <li>ボランティア講師の取り組みや地域の方々との交流を保護者の方々目の見えるように広げて行く。</li> <li>普段、家庭では体験できないような体験を通して興味や関心を持って積極的にチャレンジする気持ちを持てるような保育内容を展開していく。</li> <li>クラス単位ではなく、園全体で異年齢児交流として取り組める機会を多く持つ。</li> </ul>	発表会資料、事業計画書・報告書、年間・月間・週間カリキュラム、実践記録	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の研究発表テーマに基づき、「心の集い」や相手の気持ちに気づけるような取組を実践し、保護者や地域の方(ボランティア)への感謝の気持ちを込めた『ありがとうの会』を開催した。</li> <li>クラス単位で過ごす場合と異年齢で活動する場合について、職員間(特に幼児クラス)で連携をとりながら様々な異年齢児交流が出来た。</li> </ul>	A	自然、心、礼節、伝統からなる保育方針を意識した保育を実践するため、様々な体験を織り込みながら創意工夫を凝らした取り組みがなされている。	無	次年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラス単位ではなく、園児の発達状況に合わせたカリキュラムを作成し、園児自身が遊びを選択できるような環境を整えていく。</li> <li>25年度から導入したボランティア講師による「華道」「陶芸」の回数を増やして定着させたり、保護者の要望を聞きながら新たな取り組みを導入していく。</li> <li>一日の生活の中で「動」と「静」のメリハリをつけた活動をしていく。</li> </ul>	済	A	保育方針に基づく保育内容を個別カリキュラムにまで落とし込み、計画的に実施できるよう取り組んでいる。
2	20	3月	保護者や地域との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>父母会役員および保護者と対話する時間を多く持ち、意向を調査しながら保育内容を見直ししていく。</li> <li>保育ボランティア(高齢者、学生等)の人数を増やし、日々の保育の中に入って頂きながら、礼節や思いやりの気持ちを育てて行く。</li> <li>自治会との交流を積極的に持ち、次年度に向けて防災協定や合同行事等実施に繋がるように働きかけていく。</li> </ul>	懇談会記録、ボランティア活動報告書	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月に開催された「和の研究発表」の内容を保護者会で披露し、心を育てる保育内容の一例を提示出来た。</li> <li>勤労感謝および年度末の2回、保護者や地域の方々、ボランティアさんに感謝の気持ちを伝えることが出来た。</li> <li>自治会長その他との話し合いによりボランティアを広く募集したり、自治会総会へ出席を快諾いただくことが出来た。</li> </ul>	A	地域交流・連携という段階から地域の一員としての協働という段階へ向け、積極的に地域に働きかけている。	無	次年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常保育の中に地域の方にボランティアで入っていただきながら、園児も大人も共に楽しみながら喜んで保育園に来れる心地よい環境を作っていく。</li> <li>近隣の学校および保育園等との連携を充実させていく。</li> <li>自治会総会(5月)に出席し、保育ボランティア増員および災害時相互応援協定締結に向けて進めて行く。</li> <li>地域の公園清掃を開始する。</li> </ul>	済	A	保護者や地域のニーズ把握に努めつつ、園の意向も発信しながら、地域との協働に前向きに取り組んでいる。
3	20	3月	地域の子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭福祉員との連携内容として行事への招待以外に何が出来るのか等を家庭福祉員やその利用者家族の要望を聞いて検討して行く。</li> <li>地域の保育園、小学校、センター等との情報交換をしながら連携して子育て支援を展開して行く。</li> </ul>	家庭福祉員との連携報告書、子育て支援計画表・報告書	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭福祉員を行事や健診等に招待したり、園児と一緒に遊んだり給食を食べたりは出来たが、家庭訪問や研修参加、代替保育等までには至らなかった。</li> <li>近隣小学校見学や1年生との交流、保育園とのドッチボール大会、支援センターでの離乳食講座等を予定通り実践できた。</li> </ul>	B	園内外における地域の子育て支援活動について、より踏み込んだ内容も視野に入れながら、着実に実施している。	無	次年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭福祉員家庭への情報提供のための園発行物の送付、家庭訪問等を実施する。</li> <li>近隣の学校との合同行事や未就園児向け育児講座や親子で遊べる機会を多く持つようにする。</li> </ul>	済	B	地域の子育て支援に向けた取り組みが計画どおり実施されている。
4	5	3月	保育士の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひとり一人に目を向け、その子の背景を含めた支援を職員の共通理解の中で出来るように情報共有のためのケース会議等を多く持つようにする。</li> <li>エピソードカンファレンスを積極的に実施し、職員が互いの意見や思いを出し合える機会を持ち、保育に対する思いを共有していく。</li> <li>内部研修については、同内容を有期雇用契約職員にも実施し、すべての職員が自己研鑽出来るように意識づけて行く。</li> </ul>	研修計画・実施報告書、内部委員会綴り	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月、カンファレンスの時間を設け職員が自分の保育を振り返りながら話し合える時間を持った。</li> <li>保育ソフト導入による研修、試行を通して園児の発達を年齢では無く、発達段階で見えて行くことを共通認識できた。</li> </ul>	B	職員の自己評価、職員間の意見交換などにより職員の資質向上を図っている。	無	次年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育ソフト導入に伴い、ひとり一人の自主性を尊重する保育(職員が手伝い過ぎない)を展開して行くために、研修等を利用して職員が自己研鑽して行く。</li> <li>職員の得意分野を活用出来るような提案、企画を取り入れるようにし、やりがいのある職場環境を保って行く。</li> </ul>	済	B	各種研修、カンファレンスの成果を園全体で共有し、職員の資質向上については保育サービスの質の向上につながる取り組みがなされている。
5	15 21	3月	環境整備・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスク委員会および防災委員会を中心に事故や災害を未然に防ぐことを全職員が意識出来るように進めて行く。</li> <li>全職員が上級救命講習受講し、万が一に対応できるようにする。</li> <li>災害時のBCP作成および地域との相互応援協定締結に向けて、準備を進めて行く。</li> </ul>	遊具等の安全点検表、修繕申請書・報告書、リスクマネジメントファイル、ヒヤリハット報告書	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>上級救命受講については有期職員を含めほぼ全員完了した。</li> <li>法人の部会と連携を取りながら保育BCPの素案が完成し、またリスク委員会によるヒヤリハット集計等を会議や朝礼で職員に周知。</li> <li>予定していたテラス屋根葺き替えが次年度繰越になってしまいう等、修繕が遅れ気味。</li> </ul>	B	事故や災害を未然に防ぐ取り組みと並行して発生した場合を想定した取り組みが計画的に進められている。	無	次年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育室内の環境整備(家具買換え、配置、遊具の補充)に重点を置いていく。</li> <li>地域との防災協定や警察や消防署との連携(訓練等)を充実させていく。</li> </ul>	済 要	B	子どもの安全・安心に配慮した環境整備・安全管理に係る取り組みが計画的に実施されている。